

# 令和6年度 第3回松本市公民館運営審議会

日 時 令和7年3月13日(木)

18:00から

会 場 中央公民館3-2

## 1 開 会

## 2 委員長あいさつ

## 3 内 容

(1) 令和6年度松本市議会2月定例会 公民館に関連する一般質問について

(2) 令和6年度 生涯学習課・中央公民館事務事業の総括について

(3) 意見交換「5つの重点戦略【テーマ：地域拠点／自治組織の再構築】における各地区の取組み結果について」

【公民館職員出席者】

島内公民館 館長 上條光司／主事 中條 陽

(4) その他

次年度の委員交代について

## 4 閉会

松本市公民館運営審議会委員・Mウイング文化センター運営委員名簿

根拠法令等 松本市公民館条例、松本市公民館運営審議会規則、松本市Mウイング文化センター運営委員会設置要綱

活動内容 館長の諮問に応じ、公民館における各種の事業の企画実施につき調査審議するとともに、Mウイング文化センターの運営について協議する。

◎委員長 ○副委員長

区分	氏名	所属団体等
学校教育	五明佳代	松本市立筑摩小学校 校長
	馬場英晃	松本市立大野川小・中学校 校長
社会教育	○ 立石恵子	フリマネット信州 代表
	降旗都子	松本市地域づくり市民委員会 委員長 第三地区まちづくり協議会 副会長
	染井伴子	松本市女性団体連絡協議会
	中田安子	元 第三地区公民館 館長
	百瀬 壽	松本市町内公民館長会 会長
	中島麻衣	地域づくり考房「ゆめ」
	山口 茂	松本市公民館報全市版編集委員会 委員長
家庭教育	小穴 一郎	NPO法人信州ソフトウェア協会 代表理事
	高木 守	松本市PTA連合会 顧問
有識者	◎ 久保田 由美	松本みんなのにほんご教室
	◎ 向井 健	松本大学 総合経営学部 准教授
有識者	前田 豊	信州大学 人文学部 准教授
	公募者	小峰悦雄 公募

(任期2年:令和5年8月1日から令和7年7月31日まで)

事務局	廣田圭男	松本市生涯学習課・中央公民館 課長(館長)
	上嶋秀俊	松本市生涯学習課・中央公民館 社会教育推進担当 係長

令和6年度 松本市議会 2月定例会 公民館に関連する一般質問

【太田正徳 議員】

質問	答弁(教育次長)
<p>本市公民館活動の<u>組織体制</u>、<u>主な活動内容</u>、<u>令和3～5年度の利用状況</u>は？</p>	<p>1 組織体制</p> <p>(1) 全35地区に公民館長・主事を配置し、全市的な活動を所管する中央公民館を設置</p> <p>(2) 住民が主体的に公民館運営へ参画するため、「運営・館報・図書視聴覚・文化」の5部門委員会を設置し、約2,000人が職員と一緒に活動</p> <p>(3) 住民が自主的に運営する町内公民館もあり、住民と行政の連携によって、身近な町会単位から地区、全市レベルまで多層的な組織体制を構築</p> <p>2 主な活動内容(3つの柱を主軸に活動)</p> <p>(1) 住民の幅広い学習ニーズに対応し、学ぶ楽しさや生きがいを生み出す学習講座の実施</p> <p>(2) 住民相互の親睦を深め、地域への関心や仲間づくりを進める地域イベントの開催</p> <p>(3) 地域課題を解決するために、住民が共に学び合い、話し合う場づくり</p> <p>※特に(3)は、カルチャーセンターとは違う住民自治の拠点としての公民館の特徴</p> <p>3 利用状況(主催事業、自主サークル活動)</p> <p>R3年度…44,848件/460,606人</p> <p>R4年度…50,793件/572,131人</p> <p>R5年度…54,831件/663,577人</p> <p>※コロナ禍以前の利用状況に回復傾向</p>
<p>地区体育・文化事業は前例踏襲がベース。コロナ禍を経て、見直しを求める住民ニーズとの間に、ギャップが生じていると感じる。</p> <p>また、現在の公民館は「若者の利用が少ない」という話も聞く。</p> <p>そういった課題解決や、幅広い世代の利用促進へ向けた解決策は？</p>	<p>1 住民ニーズとのギャップの解決</p> <p>(1) 運動会等の地区事業は、町会対抗による選手集めへの負担感や参加者のやらされ感などがある。</p> <p>(2) 現状を踏まえ、各館で住民と話し合いながら、必要に応じて事業を見直し</p> <p>(3) 単に行事を中止するのではなく、本来の目的となる住民同士の顔が見える地域づくりを進めるために、負担感よりも楽しさ・参加意義を感じられる行事へ変える視点を大切に、住民アンケート等でニーズ把握しながら推進</p>

	<p>【見直した地区の事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新村…防災等を学ぶ「防災フェスティバル」</li> <li>・ 中山…幅広い世代が参加できる「モルック大会」</li> <li>・ 島内…体験型アトラクションを主とする「スポーツフェスティバル」</li> </ul> <p>2 幅広い世代の利用促進</p> <p>(1) 若者の居場所を拡充(フリースペース開設事業)</p> <p>R 5年度まで… 4館(学習スペース)</p> <p>R 6年度から… 7館(学習に限定しないスペース)</p> <p>※R6.8～R7.1の間に、第三地区で1,400人を越える若者が勉強・読書・ゲーム等で利用</p> <p>(2) 若者の学びニーズの把握</p> <p>R6.12～R7.1にかけて市内高校生を対象に、現在の音楽活動の状況や練習場所、必要な機材等のアンケート調査実施</p> <p>(3) 部活動の地域移行</p> <p>中学生からニーズのあった料理・手芸・書道等の文化活動に対し、公民館サークルへ仲間として受け入れが可能なかを照会中</p>
<p>さまざまな地域団体や地域づくりセンター・公民館・福祉ひろば等の機関が連携することで、多様で効果的な地域活動が展開できると考える。</p> <p>公民館として<u>連携することの意義</u>をどう捉えているか？</p>	<p>1 連携する意義</p> <p>様々な思いや考えを持った人や団体が、義務感ではなく、楽しみながらつながることで、新たな学びや刺激を生み、個々の活動では思いもよらない発想や取組みを創造</p> <p>⇒こういったつながりが連鎖し、さらなる新たな展開へ広がることが連携する意義</p> <p>2 連携活動の事例(島内地区)</p> <p>(1) 公民館がつなぎ役となり、平瀬城址(特別史跡)を核にした地域づくりを推進</p> <p>(2) 町会・町内公民館・史跡関係者、地区内の酒造会社・染物店・飴屋等が連携し、平瀬古城会を組織</p> <p>(3) 染め物体験会や陶芸教室のほか、R6.10に安曇野市堀金地区と協働した狼煙まつりを開催</p>

# 令和6年度事務事業報告

## 生涯学習課・中央公民館

### 1 事務事業の概要

誰もが住みよい地域社会の創造へ向け、住民・地域団体・市民活動団体・大学・行政等の「多様な主体」がお互いの立場を越えて連携し、「自分たちの地域は自分たちで創る」という自治意識の根付いた地域を形成します。お互いの垣根を越えて理解を深めながら自治能力を高めるために、公民館等の施設整備や多様な市民の意見を反映した学習・地域活動を実践します。

さらに、自治組織の高齢化や担い手不足といった課題を解決する鍵となる、若者や子育て世代の女性、移住者等を含めた幅広い世代・立場の住民が主体的に地域活動へ参画するために、若者の居場所づくりの推進や、住民ニーズに合った公民館事業を展開します。

### 2 生涯学習課・中央公民館の総合評価

	自己評価	評価の理由
重点目標の達成度	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティスクールの国型モデル校では、学校運営協議会の設置や地域学校協働活動推進員の配置により、学校と地域が子どものために真剣に議論し、新たな取組みを生みだしました。</li> <li>・学習・フリースペースの拡充により、若者による公民館利用が増加し、一部では地域との関係が生まれつつあります。</li> <li>・松本市公民館チャンネル(YouTube)へ各公民館の講座を投稿し、映像コンテンツを充実させました。</li> <li>・公民館等長寿命化事業として、Mウイング第3期工事(屋根改修、多目的ホール床改修、サイン更新、照明LED化等)の中間改修工事を実施し、施設の利便性が向上しました。</li> <li>・旧松本高等学校校舎への冷房設備整備に関して、先進地(山形県)の視察を通じて、一定の方向性が見えてきました。</li> </ul>
社会情勢への対応(任意)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「公民館は高齢者が行くところ」とのイメージを払拭し、若者の活用を促進するため、中央公民館2階のフリースペースへの座席の増設や参考図書の設置などを進めました。</li> <li>・コミュニティスクール事業の取組みを加速させるために、令和7年度からの新規国型モデル校設置に向けた調整を進めました。</li> <li>・ペーパーレス化を進めるため、ハタチの記念式典の参加申込みとパンフレットを電子化しました。また、記念写真をデータで参加者に送信しました。</li> <li>・地球温暖化対策として、あがたの森文化会館の冷房設備がない貸室にスポットクーラーを配備しました。</li> <li>・文化観光都市としての魅力向上のため、池上百竹亭の幅広い活用策を検討するに当たり、令和7年1月から暫定的に直営による施設管理を行いました。</li> </ul>
事務事業の効率化(任意)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくりの集いに係る市民の負担を軽減するため、幹事会を廃止し、よりメンバーを絞り込んで効率的、効果的に企画する準備会を組織しました。</li> <li>・あがたの森文化会館の各部屋の机とイスの配置数を、貸室の利用状況に合わせて整理しました。</li> </ul>

### 3 令和6年度における重点目標の成果と課題

(1) コミュニティスクール事業(継続) <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年度から大野川小・中学校で取り組む「国型コミュニティ・スクール事業」を他地域へ横展開</li> <li>・地域・保護者・学校等が連携・協働して地域の子どもの成長を支える「松本版コミュニティスクール事業」を全地区で推進</li> </ul> <具体的な進め方等> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大野川小・中学校の取組結果・効果に関係者等と共有し、令和</li> </ul>	【第3次計画で主に関連する分野・方針】 <ul style="list-style-type: none"> <li>2-1 学童期の遊びと学びの充実</li> <li>2-3 教職員研修の充実と働き方改革の推進</li> <li>8-2 学校・家庭・地域の連携・協働の推進</li> </ul>
--	--

<p>7年度からの新規国型モデル校の取組みを検討(2校程度)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>松本版コミュニティスクール事業は、引き続きコミュニティスクール運営委員会での話し合いを通して、地域特性を活かした事業を展開</li> </ul>	
<p>ア 事業成果</p> <p>(7) 事業の達成状況</p> <p>a 国型コミュニティ・スクール事業を進める大野川小・中学校では、法に基づく学校運営協議会と地域学校協働活動推進員を置いたことで、住民が学校運営に当事者意識を持って参画し、3回の学校運営協議会で活発な議論を展開しました。</p> <p>その結果、地域資源である「奥穂高岳」を活用した学校登山の持続可能な手法として、地域(地域学校協働本部)主体による実施の方向性が確認されました。</p> <p>この他、部活動の地域移行に伴う「地域クラブ」設立へ向けた話し合いや、PTAを主体とする夏祭り、子どもの居場所づくり、放課後子ども教室の開設など、地域と学校の新たな連携活動が生まれています。</p> <p>b 令和7年度からの新規国型モデル校として、大野川小・中学校より規模が大きな「1地区で1校を支えるモデル」と「複数地区で1校を支えるモデル」に相応しい学校及び地域学校協働活動推進員の選定を進めました。</p> <p>c 松本版コミュニティスクール事業については、地域住民等が学校運営委員会を通じて学校の取組状況や子どもたちの様子を共有しました。また、子どもたちは地域の大人たちと一緒に、農業、伝統行事、自然・環境、まち歩きや花壇整備、避難所設営などを体験し、生きる力を育みました。</p> <p>(イ) 第3次計画において位置づけた「関連する分野・方針」との連携についての達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国型及び松本版のコミュニティスクール事業を進めた結果、地域、保護者、学校などが子どもや地域への思いを共有し、連携しながら子どもの成長を支える気運が向上しました。</li> <li>また国型では、コミュニティスクール事業費とトライやるエコスクール事業費を統合し、委託料として一括配当することで、学校運営協議会での議論と地域連携予算がより密接に連動するとともに、事務の効率化による教員の負担軽減にもつながりました。(2-3、8-2)</li> </ul>	
<p>イ 課題と方向性</p> <p>本事業の成果は、コーディネーターである推進員の資質によるところが大きいことから、コーディネーター資質を持った人材の発掘、確保が課題です。</p> <p>今後は、令和7年度から拡大する国型モデル校の成果や課題を検証しながら、更なる横展開を検討します。</p>	
<p>(2) 子ども・若者の居場所づくりと社会参画事業(継続)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域への若者の関わりを進めるため、公民館に学習・活動スペースを開設</li> <li>若者の社会参画を促進するため、若者のニーズや課題を踏まえた講座・イベント等を開催</li> <li>ひきこもりの若者等を支援する研修会等の実施</li> </ul> <p>&lt;具体的な進め方等&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中央公民館(Mウイング)及び10地区公民館に学習・フリースペースを開設</li> <li>青少年ホームが若者のニーズに合わせた講座や若者が主体となった事業等を実施</li> <li>ひきこもりに関する研修会を当事者、その家族、支援者等を対象に開催</li> <li>様々な事情により家で過ごす子ども・若者の居場所として、松原地区公民館、笹賀公民館に「居場所支援ほっとスペース」を開設</li> </ul>	<p>【第3次計画で主に関連する分野・方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2-2 青年期の遊びと学びの充実</li> <li>2-4 多様な遊びと学びの機会の保障</li> <li>3-1 子どもの権利保障と環境づくりの推進</li> <li>4-2 リカレント教育の充実</li> <li>8-1 放課後の子どもの居場所づくりの推進</li> <li>8-3 地域づくりの推進</li> </ul>
<p>ア 事業成果</p>	

	<p>(7) 事業の達成状況</p> <p>a 4つの公民館（中央・松南地区・梓川・四賀）で通年利用できる学習スペースを開設するとともに、学校の長期休業に合わせて18館で、児童・生徒の居場所として公民館を開放しました。</p> <p>b 令和6年8月から7地区公民館（第三地区・城東・白板地区・島内・芳川・寿・庄内地区）で、学習に限定しないフリースペースを開設しました。令和6年8月～令和7年2月末までの間に2,167人が、勉強や読書、ゲーム等で利用しました。 その結果、常連の利用者も増え、公民館や地域の大人と一緒に取り組んでみたいことを話し合うなど、「ほど良い距離感」のなかで関係性が構築され始めています。</p> <p>c 青少年ホームにおいて、ヤングスクール（38講座）をはじめ、ボードゲームイベントや外国文化を学ぶ「多国籍なんなん交流会」など、若者のニーズに合わせた事業を実施することで、若者が気軽に参加できる居場所づくりが進みました。 また、ハタチの記念式典では、実行委員の若者たちの自由な発想により、クイズ大会や旧担任動画メッセージの上映など、従来とは異なる若者主体の参加型式典が開催されました。</p> <p>d 学校支援室との連携により松原地区公民館と笹賀公民館で進める「居場所支援ほっとスペース」事業は、地区内での認知が広がり住民ボランティアの参画が進んだ結果、1年間で両地区合わせて延べ1,000人以上の利用があり、子ども同士で勉強や読書をしたり、保護者も一緒にスポーツやゲームをしたりと、垣根を越えた交流が生まれています。</p> <p>e ひきこもりの若者や家族を支える取組みとして、「若者カフェ」（なんなんひろば1階喫茶室、毎週日曜日）や、ひきこもりに関する研修会（3回開催）等を開催し、関係者の交流と学習の場を提供しました。</p> <p>(i) 第3次計画において位置づけた「関連する分野・方針」との連携についての達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・7地区へのフリースペース開放事業と居場所支援ほっとスペースは、若者の居場所づくりに留まらず、そこから公民館職員や住民等など大人との関わりが生まれ、地域社会とつながるきっかけになりました。</li> <li>・まつもと子ども未来委員会（こども育成課）との連携により、学習、フリースペースの位置を地図上で検索できるツールを高校生が作成しました。</li> <li>・ひきこもりに関する研修会は、健康福祉部との協働による企画、運営が進んでいます。</li> </ul> <p>(2-2、2-4、8-1、8-3)</p>
	<p>イ 課題と方向性</p> <p>(7) 若者のフリースペース事業では、「利用者の定着化」や「公民館職員等の大人との『ゆるやかな関係性』の構築」が進む一方で、利用者数が伸び悩む公民館がありました。開設する曜日や時間帯、開設頻度、また通学路上にフリースペースが存在するか等、利用実績を左右する要素が見えてきたので、今後、周知方法や開設日時について見直していきます。</p> <p>(i) ひきこもりの若者等に対する支援は未だ限定的ですので、引き続きひきこもりに対する正しい知識や対応を学ぶ場を提供します。</p>
<p>(3) ICTを活用した多様な学びとコミュニティ創出事業（継続）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTを活用し全ての人が自由に学べる学習の場を充実</li> <li>・デジタルデバイド解消の推進</li> </ul> <p>&lt;具体的な進め方等&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTを活用した動画配信等による学びの場の提供及び効果的な情報発信の方策を研究</li> <li>・ICT活用に係る学習講座の開催及び人材の発掘・育成</li> </ul>	<p>【第3次計画で主に関連する分野・方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2-4 多様な遊びと学びの機会の保障</li> <li>3-2 互いを認め合い学び合う教育の推進</li> <li>4-1 社会教育活動の充実</li> <li>8-1 放課後の子どもの居場所づくりの推進</li> <li>8-3 地域づくりの推進</li> </ul>

<p>ア 事業成果</p> <p>(7) 事業の達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館事業や、公民館報の記事に連動した動画を「松本市公民館公式チャンネル(Y o u T u b e)」へ投稿し、映像コンテンツの充実を図りました。また、公民館事業への参加を促すため、映像コンテンツによる情報発信を行いました。</li> </ul> <p>(イ) 第3次計画において位置づけた「関連する分野・方針」との連携についての達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタルディバイド解消のための取組みとして、DX推進本部と連携し、地区公民館で初心者対象のスマートフォン講座、相談会を実施しました。</li> </ul> <p>(4-1、8-3)</p>	<p>イ 課題と方向性</p> <p>(7) 現在、デジタルディバイド解消に向けた学習の担い手は主に公民館職員となっているため、地域住民による人材育成に向けた事業を展開します。</p>
<p>(4) 公民館等長寿命化事業（継続）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館等の長寿命化に向けて、施設の機能を維持・回復するために、設備機器の中間改修を実施</li> </ul> <p>&lt;具体的な進め方等&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Mウイングは、令和4年度からの計画に基づいた改修を行うとともに、第4期工事へ向けた実施設計の調整</li> <li>・地区公民館では、島立公民館の実施設計や旧奈川公民館解体へ向けた調整を実施</li> </ul>	<p>【第3次計画で主に関連する分野・方針】</p> <p>4-5 社会教育関係施設の整備・充実</p>
<p>ア 事業の成果</p> <p>(7) 事業の達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Mウイング（中央公民館）は建設から25年が経過し、大規模施設のため4ヵ年計画で中間改修工事を実施します。3年目となる本年度は屋根改修、多目的ホール床改修、サイン改修、照明LED化、自動火災報知設備の更新等を行うとともに、次年度の工事であるMウイング第4期中間改修工事の実施設計を行いました。</li> <li>・令和7年度解体予定の奈川公民館の解体前アスベスト調査を行いました。</li> </ul> <p>(イ) 第3次計画において位置づけた「関連する分野・方針」との連携についての達成状況</p> <p>Mウイング中間改修工事とともに第一地区地域づくりセンター、中央保健センターの設備改修を行い、地区住民への利便性向上を図りました。（4-5）</p>	<p>イ 課題と方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別施設計画に基づいた中間改修工事により、当面、老朽化した施設・設備を更新していきます。</li> </ul>
<p>(5) 重要文化財旧松本高等学校校保存活用事業（新規）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・旧松本高等学校本館及び講堂の保全活用計画を見直すとともに懸案となっている冷房設備について検討</li> </ul> <p>&lt;具体的な進め方等&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・冷房設備を導入する他自治体の先進事例を視察し、文化庁・長野県の指導を受けながら導入を検討</li> <li>・今後10年間に見込まれる、保存管理・防災計画等を盛り込んだ「第2期保存活用計画」策定へ向けた調整</li> </ul>	<p>【第3次計画で主に関連する分野・方針】</p> <p>4-5 社会教育関係施設等の整備・充実</p> <p>8-3 地域づくりの推進</p> <p>9-2 文化遺産の保存と活用</p>

ア 事業成果

(7) 事業の達成状況

- a エアコン未設置の貸室に、安全対策のためスポットエアコンを配備しました。
- b 近代の重要文化財建造物が複数ある山形県を視察し、冷房が完備されている施設では、置き型のエアコンを露出させることが主流であることがわかりました。
- c 現状の課題を洗い出し、対策の方針案をあがたの森文化会館管理運営委員会で協議し、第2期重要文化財旧松本高等学校本館及び講堂保存活用計画の素案に反映しました。

(1) 第3次計画において位置づけた「関連する分野・方針」との連携についての達成状況

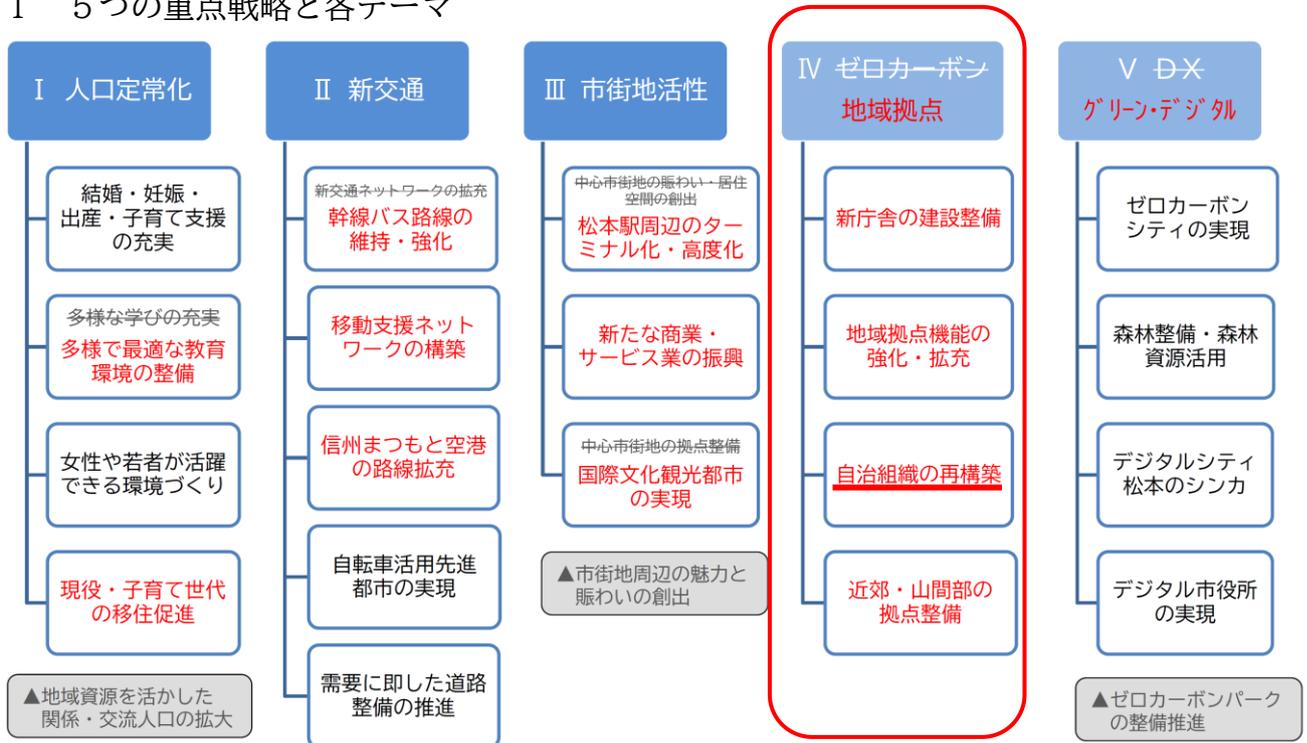
- a 耐震対策事業が修了したため、より積極的な文化財の活用として、耐震補強工事の様子を写真パネルで紹介しました。
- b 松本観光コンベンション協会のフィルムコミッション担当と連携し、映画等のロケに積極的に協力し、施設の知名度向上に努めました  
(8-3、9-2)

イ 課題と方向性

- ・ 配備したスポットエアコンは動作音が大きいため、稼働率は想定よりも低調でした。
- ・ 防火・防犯等の文化財建造物防災設備整備事業をはじめ、保存活用事業及び環境整備事業を実施するため、第2期重要文化財旧松本高等学校本館及び講堂保存活用計画を策定します。

## 5つの重点戦略・各テーマ

### 1 5つの重点戦略と各テーマ



### 2 「地域拠点／自治組織の再構築」における公民館活動の方向性

戦 略	公民館のあり方を根本に立ち返って見直し、誰もが主体的に参加できる持続可能な組織・事業へと再構築する。
戦 術	<p>効率化等による担い手の負担感低減及び、前例踏襲的な組織運営・事業と住民ニーズとのギャップ解消による「やらされ感」の低減を図り、若者・女性・子育て世代・移住者等の参画を促す。</p> <p><b>【負担軽減・効率化】</b></p> <p>前年踏襲で運営されがちな事業の刷新、一人ひとりの主体的な参画を推進</p> <p><b>【組織運営・事業実施のサポート】</b></p> <p>公民館職員が、利用者と「ほど良い距離感」で住民ニーズに基づいた事業実施を伴走型でサポート</p> <p>⇒身近な拠点、身近な困りごとの相談窓口としての地域づくりセンター・公民館の機能強化</p>
現 状 課 題	<p>前例踏襲で運営されがちな行事と現在の住民ニーズにギャップがあり、参加意欲の低下・運営側の負担につながる</p> <p>⇒ギャップの解消により、「参加したい」と思わせる行事に変えていく必要がある。</p>
具体的な 取組み	若者の居場所づくり対象地区拡充、公民館職員等が利用者と自然な関わりを持てる関係性づくり(伴走型支援)、既存事業の見直し

【5つの重点戦略】 令和6年度 公民館事業の取組み結果（2025.1.30時点）

NO.1

NO	公民館名	見直し 新規	事業名	これまでの取組み経過	住民等から寄せられていた課題等	今年度の取組み結果
1	四賀公民館	見直し	四賀地区文化祭生涯学習フェスティバル	<ul style="list-style-type: none"> <li>「展示部門=文化祭」、「ステージ部門=生涯学習フェスティバル」として実施していたが、公民館が四賀支所に移設する時から、別日開催とした。</li> <li>R4年度は、文化祭を10月最終土・日曜日の2日間、生涯学習フェスティバルは11月中旬の日曜日に別々に開催していた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化祭は出店等もありにぎやかだったか、フェスティバルの観客が少なくなってきた状態だった。</li> <li>フェスティバルの運営会議で「観客が少なく発表していても張り合いがない」という意見が出され、文化祭とフェスティバルの運営会議で検討した結果、R5は試験的に同時開催とした。結果として、運営者・来場者双方にとってプラスとなったが、フェスティバルで使用するピナスホールは、文化祭の展示会場としても使用したため、R6へ向けて展示場所の配置を大幅に変更する方向性で進めることとした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>11月16日（土）、17日（日）に同時開催。（フェスティバルは日曜日のみ）</li> <li>フェスティバルの観客は思ったより増えなかったが、アンケート調査をしたところ今年度も同時開催していくことになった。</li> <li>反省会において、「同時開催のPR不足」、「ホールへの案内方法等がまずかった」、「『生涯学習フェスティバル』という名称が硬過ぎる」等の反省が出されたので、改善へ向けて検討を進める方針。</li> </ul>
2	松南地区公民館	見直し	地区公民館居酒屋	<ul style="list-style-type: none"> <li>地区内の町内公民館を会場に、交代制で「公民館居酒屋」を実施していたが、コロナ禍に入って中断していた。</li> <li>地区公民館よりも身近な町内公民館を会場に、地元町会や地区内の住民が集まって、和気あいあいとした親睦交流の場となっていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アフターコロナで住民の親睦交流の場がコロナ禍以前より減少し、事業の復活を望む声があった。</li> <li>地区の「なんぶ未来まつり」は大規模なイベントで、準備から片付けまで、関係者の負担が大きく、多くの関係者から、負担軽減を求められていた。そこで、コロナ禍後から閉祭時間を前倒したが、日没後に酒など飲みながら交流&amp;賑わう時間が無くなった。</li> <li>そういった経過を踏まえ、地域から公民館居酒屋の実施・充実が求められていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>6月に芳野町、R7年2月に南松本丁目の町内公民館を会場に、公民館居酒屋を実施した。</li> <li>運営方法等については、企画や準備などを会場となる町会だけ任せるのではなく、地区役員や地区関係職員（生活支援員、福祉ひろば職員など中心に）が密接に関わるように変更した。今後も、継続的に実施していく予定。</li> </ul>
3	松南地区公民館	見直し	地区子ども会育成会事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>各町会から選出された小学生の保護者が、1年交代で育成会役員を務める体制のため、「引継ぎが円滑に行えない」「役員の負担が大きい」「事業の継続性」などの課題があった。</li> <li>そこで、公民館長が相談役などとして関り、事業の企画運営のサポートなども行ってきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>少子化や家庭状況の変化等により、育成会事業への参加者減少や役員の負担が増加し、R5年度以降、2町会から1名の役員を選出する&amp;役員を選出しない町会もあった。</li> <li>R6年度に小学校PTAの在り方見直しが行われた結果、PTAを含めて育成会役員のなり手となる保護者が減少し、R7年度から役員を選出できない町会が大幅に増加する見込みとなった。</li> <li>役員の減少によって負担がさらに増加し、アフターコロナで育成会事業への参加者の減少が顕著となったことで、育成会の在り方や事業の見直しを検討したい旨、現役員から相談があった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現役員主導で育成会の在り方や育成会事業の見直しを行い、公民館長が相談役として助言や資料作成を補助した。</li> <li>R7年度から役員が大幅に減少することから、地区の育成会主催事業を休止。伝統行事などの町会行事は、連合会などの町会役員が人的協力面において継続に関わり、地区内の保護者間の連絡機能を果たすこととした。</li> </ul>
4	梓川公民館	見直し	スポレクフェスin梓川2025	<ul style="list-style-type: none"> <li>地区運動会の方向性について、全世帯アンケートをR4年度に実施して地区運動会の廃止を決定</li> <li>地区運動会に代わるスポーツイベントの検討を地区スポーツ協会、スポーツ推進委員と実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地区運動会は約1000人が参加して10月に実施していたが、「町会対抗で選手集めが大変」「見直しの時期が来ている」等の意見があり、R4年度に地区運動会の方向性についてアンケートを実施。回答の約8割が「廃止」であったため、まちづくり協議会で地区運動会の廃止を決定</li> <li>地区運動会に代わるスポーツ振興が必要との意見もあり、新たなスポーツイベントの検討をR5年度から開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新たなスポーツイベントの検討を行い、R7年10月にニュースポーツの大会を行うことを決定。町会対抗でなくオープン参加として、町内公民館の負担を軽減。また、開催経費はまちづくり協議会と地区スポーツ協会が負担することとした。</li> </ul>
5	島立公民館	見直し	スポーツフェスティバル	<ul style="list-style-type: none"> <li>10数年前、運動会に参加できない町会もあったことから、オープン参加によるスポーツフェスティバルに切り替える。</li> <li>毎年10月に開催し、老若男女問わず約500人の幅広い世代が参加するスポーツイベント。</li> <li>住民から「町会対抗による運動会形式の種目も入れてはどうか」との話もあり、町会対抗競技を主体に、オープン参加種目も取り入れながら実施していた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現状、オープン参加から町会対抗の種目を取入れてきた結果、「町会対抗では、選手集めが大変」との意見が町内公民館長等から入る。</li> <li>そこで、オープン参加で参加できる種目を増やしながら選手集め等の負担を軽減し、運営者・参加者全体が、楽しく参加しやすいフェスティバルへブラッシュアップしていく方針となる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>R6から新たに、オープン参加の種目（ストラックアウト、スリッパ飛ばし、モルック）を取り入れた。</li> <li>結果として、子供から大人まで多数の家族での参加があった。</li> </ul>
6	島立公民館	見直し	ソフトボール大会	<ul style="list-style-type: none"> <li>9月に町会対抗により実施し、200人程度参加している。</li> <li>これまでの参加条件のなかに、「女性2人を常時出場」があった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>女性の参加者がいないため、参加できない町会があり、見直しを求める声があった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>女性2名出場を参加条件から外し、女性が常時出場したチームには1名につき6点を加点するルール変更を行い、全町会参加へつなげられた。</li> </ul>

【5つの重点戦略】 令和6年度 公民館事業の取組み結果（2025.1.30時点）

NO.2

NO	公民館名	見直し 新規	事業名	これまでの取組み経過	住民等から寄せられていた課題等	今年度の取組み結果
7	大手公民館	見直し	お花見会 門松づくり もちつき大会	・地区住民の交流を促し、親睦を深めるために実施し、3事業で100人以上が参加。 ・町会連合会など地区団体の主催行事として長年実施しており、公民館、福祉ひろば、地域づくりセンターが支援してきた。	・市社協からの募金配当金が減額されたことや近年の物価高を受け、「地区行事の主催者、目的、予算等を改めて見直してはどうか」との意見が寄せられる。 ・また、現状公民館・福祉ひろば・地域づくりセンターが事務局として伴走以上の支援をしているため、関係する一定の住民に「公民館に協力している」という感覚があり、行事を始めた初期と現在に大きなギャップがある。	・少しずつ主催者意識を持ってもらうよう、次年度へ向けて協議を開始 ・行事ごとに部会を組織し、「部会が主体、公民館は伴走支援」という運営方法を検討中
8	本郷公民館	見直し	本郷地区文化祭	・コロナ禍以前は、文化祭を金曜日から日曜日にかけて、3日間実施。このうち、金曜日にはプロのミュージシャンやタレントを呼んだ前夜祭を開催していた。 ・コロナ禍後、R5年に再開した文化祭は、過年度通り前夜祭を実施したが来場者が思うように集まらず、運営者側の課題にあがっていた。	・会場設営や運営などの文化祭の実務を担う町内公民館長から、「高齢化や共働き世帯の増加に伴い、3日間の開催が大変厳しい」という意見が寄せられた。また、R5年度の文化祭で課題にあがっていた「前夜祭への来場者減少」の点も踏まえ、前夜祭の実施について見直しを求める意見が寄せられた。 ・意見を基に、町内公民館長や地区団体役員等で組織する文化祭検討委員会で話し合い、労力の削減とイベント集約による賑わいの創出を目的に、前夜祭の中止を決定。	・前夜祭中止により、イベント運営が土日に集約された結果、町内公民館長等のスタッフの負担軽減につながり、R7も2日間開催の方向で検討している。 ・前夜祭の協議に費やした時間が削減された分、「本郷地区松本市合併50周年」に関連する特別企画について十分な検討時間を設けることができ、蟻ヶ崎高校書道パフォーマンスや50周年記念映像上映、50年を振り返る展示を実施し、来場者にも好評だった。
9	城東公民館	新規	育成会・三世代交流部会事業	・R5年度まで、「城東地区育成会・三世代交流部会」の事業は、城東地区福祉ひろばと元町児童館を会場として開催していた。 ・公民館職員は、一切協力していなかった。	・福祉ひろばの「ひろば事業を主に進めていきたい」という考えと、元町児童館が城東地区住民以外の利用もあるため、育成会・三世代交流部会の事業会場を検討・変更することになった。	・城東地区の地区団体事業となるため、城東公民館を会場に開催をすることとし、公民館も協力・共催する方針にした。 ・7月に七夕人形作りとほうとうを食する会(45人参加)、12月に餅つき大会(66人参加)、1月にまゆ玉作り(60人参加)を開催し、来年度も同様に進める方針
10	芳川公民館	見直し	地区文化祭	公民館登録利用サークルと関係団体、各町会からの文化委員で構成する実行委員会において、前年度からの課題や意見を踏まえた事務局提案(公民館)を基に、3回の実行委員会で検討を重ねて開催 ＜令和1年＞ ・公民館、体育館、福祉ひろば、小学校、南部屋内運動場を会場に通常開催 ＜令和2年＞ ・新型コロナウイルス感染拡大に伴い中止 ＜令和3・4年＞ ・新型コロナウイルス感染防止対策の上に縮小開催(作品展示、サークル活動動画放映他) ＜令和5年＞ ・公民館、福祉ひろば、小学校、南部屋内運動場を会場に通常開催 ＜令和6年＞ ・前年を踏襲する形で実施。一部、車座「食と農～暮らし」として野溝箒の実演、四ヶ堰の話題提供のため特設舞台を設置。	【アンケート・実行委員会(ふりかえり会)からの意見・提言】 ・小学校で開催されるコンサートには、小中学校の児童・生徒をはじめその家族(30代40代の若い世代)が集っているが、主会場(公民館)で開催される団体・サークルの展示・ステージ発表、販売・実演は、別会場であることから顔を出せないため、年代を超えた交流・ふれあいをはじめ地域のつながりを生み出せていない。 →参加団体も、来場者も、負担なく行き来できる一体感のある会場設営・運営 ・人口割からも見ても来場者(特に若い世代、家族)が少ない。 →子どもから大人まで、誰もが楽しみや喜びを感じとれ、多くの出会いやふれあいを通して響き合い、つながりを感じとれる企画内容 《楽しめる企画(空間)づくり》 ＜検討課題(ポイント)＞ ・子どもから大人まで、老若男女、誰もが楽しみ喜びを感じとれる空間としたい ・団体・サークル及び参加者が多くの出会いや体験を通して響き合える空間としたい ・人と人、活動と活動、人と活動のつながりを実感できる一体感のある空間としたい 【実行委員会のあり方・運営面から課題】 ・実行委員の声をひろうのは、一堂に会した実行委員会での意見交換のみで、限られた時間、全体会ということから、十分な意見交換・情報交換が出来ていない。 ・年3回の実行委員会(全体会)における協議では、スケジュール・運営面等を考慮し、概ね事務局提案を承認する形で終わっている。 ・地域に息づく魅力ある人や豊かな活動との出会いから、共に共感・協調のなかで「つながり」「かかわり」を確認し、地域の土壌を創造する可能性を見いだせていない。	【ふりかえり会(第4回実行委員会)】 ・これまでの課題を掘り下げ、より幅広い意見交換と情報交換の中から事業を総括し、新たな提案をふくめた柔軟な運営ができるよう、事務局に検討組織(検討委員会)を設置することを事務局から提案。  【検討組織(検討委員会)の設置】 ＜目的・ねらい＞ ・アンケートや実行委員会における意見や提言等を集約し、課題の分析から新たな展開に係る対応策を検討し、原案の企画・作成を行う。 ・検討委員会における事業の意義や可能性を見出す議論・提案から、全ての実行委員が自ら参加し運営する文化祭を通して地域の土壌を創ることをめざす。 ＜検討委員会の開催＞ ・文化祭運営担当責任者の公民館利用サークルと文化委員の代表(9名)と事務局(3名)で構成。 ・①意見・提言集約、②検討課題・ポイント、③対応策・企画案の資料を基に、2月19日に開催予定。
11	芳川公民館	見直し	地区支援企画会議	＜開催日時＞ ・原則 毎月第1水曜日 午後3時30分～5時 ＜参集範囲＞ ・地域づくりセンター、公民館、福祉ひろば、南部保健センター、地区生活支援員、社協地区担当、南部地域包括支援センター、地域づくり課、生涯学習課 ＜会議の内容＞ ・地域全体の取組みに関わる情報共有 ・地区で取り組んだ地域づくりアンケートや地区診断書についての意見集約及び課題分析 ・地区の現状についての意見交換 ・各課からの連絡事項	【地区支援企画会議職員からの意見・課題等】 ・各課担当の地区へのこだわりバラツキがある。 ・主に情報共有の場となっているが、勉強となることも多い。 ・地域づくりアンケートにおける設問内容の検討をはじめ、アンケート集計に携わることから、地域課題の分析から課題の共有が図れたことは大変有意義だった。 ・最近の地域の現状(認知症の事例等)を地域包括支援センターをはじめ、地区生活支援員、保健師等から聞いて情報交換をしている。 【地区支援企画会議事務局としての課題】 ・地域の現状を知る意味で地域づくりアンケートの集計や分析の取組みは有意義であったが、地区担当職員が連携・協働した課題解決への取組み(研究・対策)までには、職員の異動もあり、継続的な議論が出来ずにいる。 ・各課からの連絡事項は事業の紹介・お知らせに止まり、事業を取組むに至った背景や意義、また今後の課題解決に向けた意見交換には至っていない。	【地区支援企画会議事務局としての働きかけ】 ・あらゆる場面で様々な形で地域の人たちと関わり、実践を展開する地区担当職員の情報を共有することを目的に、地域課題の掘り起こしから魅力ある資源・人さがしの試みを進めることを提案。 ■地域の魅力ある資源(活動・実践&人) ■地域の課題(悩み・困りごとなど) ・上記2テーマについて、地区担当職員の情報を①項目、②現状、③取組みポイント、④関わる団体・人、で整理し、目に見える形で共有化。 ・各項目の背景やポイントの分析から課題解決に向けた糸口の分析・研究を進める。 →2月5日地区支援企画会議から実践開始

【5つの重点戦略】 令和6年度 公民館事業の取組み結果（2025.1.30時点）

NO.3

NO	公民館名	見直し 新規	事業名	これまでの取組み経過	住民等から寄せられていた課題等	今年度の取組み結果
12	芳川公民館	新規	地域連携懇談会 (学校職員と地域づくり職員)	<p>芳川小学校では、地域とともにある学校づくりをめざし、子どもたちの豊かな育ちを確保するために、学校長及び学校関係者、地域関係機関・団体の代表者で構成する「芳川っ子サポーター運営委員会」を設置。学校の教育目標やビジョンを共有し、地域と一体となって子どもの健全育成に取り組んでいる。</p> <p>&lt;役割&gt; ①重点目標や課題等、学校運営の話し合い ②学校支援ボランティア(学校応援団)の年間計画作成、調整 ③学校評価(地域に関わる項目)</p> <p>&lt;委員会の構成&gt; 学校長及び学校関係者、公民館、地域住民、PTA、地域関係団体、事務局(委員:13名)</p> <p>&lt;事業内容&gt; ・学校の教育方針、年間計画等の説明 ・地域、家庭での子ども様子 ・学校関係者評価(地域に関わる項目) ・授業参観 ・情報交換、意見交換</p>	<p>【芳川っ子サポーター運営委員会における課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教育目標やビジョンは学校からの説明で共有できるが、子どもたちを取り巻く地域の様子や課題、また地域で展開される多彩な活動・人材までは十分に掘り起こしがされてないこともあり、運営委員会の中では全体像が見えにくい状況となっている。</li> <li>・一部、学校図書館の運営補助や読み聞かせなどの支援ボランティア、また芳川営農と連携したスクールファーム(農業体験:加エトマト、野溝蓴、稲作)などの実績はあるが、学校運営全体を網羅した学校支援ボランティア(学校応援団)は組織されておらず、年間計画も作成できていない状態となっている。</li> </ul> <p>【学校が抱える課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域連携事業や学年・各クラスの取組みを進めるにあたり、多忙な教職員が地区(支援サポーター等)との調整を行わなければならない。</li> <li>・また、その調整にあたって、児童の思いや発想を活かした事業展開が可能なのか、その判断を含めどこに相談して良いのか全くわからない状態。</li> <li>・昨今の社会情勢や家庭環境の変化、また市内トップクラスのマンモス校であることから、学校の運営面において大変厳しい課題が山積している。</li> </ul> <p>【地域で抱える課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営での課題や地域連携事業、学年・各クラスの取組みに必要な支援内容の情報が見えにくく、また、その支援要請に対応していくための地域の人材(地域実践者等)の掘り起こしやリスト化が出来ていない状況。</li> </ul>	<p>【地区支援企画会議事務局としての働きかけ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校と地域が連携・協働し、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支える活動を展開するため、学校と地域が対等なパートナーとして、目的や課題を共有しながら協力して活動に取り組むことをめざし、学校と地域づくりの職員による情報・意見交換の場として、地域連携懇談会を設置することについて、小学校長・教頭と懇談の上、合意を得る。</li> </ul> <p>【学校と地域職員による地域連携懇談会の設置】</p> <p>&lt;目的・ねらい&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・互いの思いを共有しながら立場を超えた幅広い情報・意見交換の場として職員等による懇談会を設置。</li> <li>・学校運営の課題をはじめ地域連携事業や学年・クラスにおける取組みへの思いや考え、悩みから要望や意見を自由に語れる場とする。</li> </ul> <p>&lt;地域連携懇談会の開催&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校側は、学校長・教頭・学年主任・担当教諭。地域側は、地域づくりセンター長、公民館、福祉ひろば、地区生活支援員ほかで調整中。</li> <li>・2月5日開催の地区支援企画会議(地域づくり職員会議)にて方針確認し、2~3月の開催をめざす。</li> </ul>
13	安曇公民館	見直し	まつもと お山で すくすく子育てサロン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の人間関係の希薄化等による子育て中の親(特に母親)の育児への不安感や負担感の増大、育児の孤立化が少子化の背景の一つと言われている。</li> <li>・子どもが幼稚園や小学校に入ると子どもを通じた親同士の交流により、地域の様々な情報が得られるようになるが、それ以前の子どもが0~3歳くらいの子育て期間では、社会全体で子どもの数が減っていく中、同年代の子どもを周りで探すことも難しい。</li> <li>・特に山間地域では、上記のような特徴が顕著であることから、R5年度から、地元団体及び地区担当保健師と共に、事業を開始した。</li> </ul>	<p>【令和5年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年4回(6月、10月、12月、3月の平日(水曜)の午前中)実施</li> <li>・実施の都度、参加者アンケートを実施し、寄せられた声は次回以降、反映させた。</li> <li>・延べ30人(母14+子16)が参加し、外遊び・絵本の読み聞かせ・親子ふれあい遊び・ソーイング・消しゴムはんこ作り・毛糸のボンボン作りなどをした。</li> </ul> <p>【参加者の声】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・知り合いが増えた。</li> <li>・子育ての悩みを共有できた。</li> </ul> <p>【地元団体、保健師及び公民館による反省会での課題及び改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・親の交流の場として定着しつつある。</li> <li>・参加者が少ない。</li> <li>・父親の参加がない。</li> <li>・運営人材の確保</li> </ul>	<p>【令和6年度(12回中11回)実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年12回(月1回)、保健師が行っている健康相談日に合わせて実施</li> <li>・実施の都度、茶話会を行い、参加者とともに、次回以降の企画内容を検討した。</li> <li>・地域とのつながりづくりのために、地元団体、保健師及び公民館が、地域住民等と調整を行い、参画を得られるよう働きかけ、11回中8回、地域住民等の参画が得られた。</li> <li>・父親の参加をねらい、12回中2回を日曜開催とした結果、日曜以外でも、父親の参加が得られた。</li> <li>・回覧(紙)での周知を極力減らし、SNS等を活用した。</li> <li>・延べ144人(父6+母55+子83)が参加し、絵本の読み聞かせ・ピラティス・ぶどう葉寿司作り・散歩・水遊び・パネルシアター・収穫体験・影絵遊び・しめ縄作り・書初め・キャンドル作り・雪遊びなどをした。</li> </ul> <p>【地元団体、保健師及び公民館による反省会での次年度の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山間地で子育てをしている親の孤独感を解消する。</li> <li>・親が子どもと離れ、少しでも自分の時間を楽しんだりリフレッシュできるようにする。(乗鞍地区の対象の子どもが皆入園予定のため、“親のための時間”に重きを置く)</li> <li>・山間地ならではの自然の中で過ごす時間を共にし、情報交換や交流の場とする</li> </ul>

【5つの重点戦略】 令和6年度 公民館事業の取組み結果（2025.1.30時点）

N0,4

NO	公民館名	見直し 新規	事業名	これまでの取組み経過	住民等から寄せられていた課題等	今年度の取組み結果
14	第二地区 公民館	見直し	第二地区盆踊り 大会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館五部門委員(運営・館報・体育・図書視聴覚・文化)全員で構成される実行委員会を組織して当日の役割分担を決め、毎年8月12日に実施。</li> <li>・町会長・町内公民館長・防災部・衛生協議会等の各種団体役員を文化委員として委嘱しており、公民館・地域づくりセンター・福祉ひろば職員が事務局を担当する。</li> <li>・開催日前の練習(2~4回、大会議室を20時まで開放)の指導と当日の模範踊りを福祉ひろばで活動する日本舞踊のサークルに依頼している。</li> <li>・会場(深志神社境内)の借用依頼、テント等の会場設営物品、出店・スイカ割り等のアトラクション用の物品手配、各種連絡調整を事務局が担当する。</li> <li>・コロナ禍のなか令和2~4年度は公民館運営委員会での協議を経て中止を決定。再開後の5~6年度には実行委員を含め概ね400人が参加している。</li> </ul>	<p>【住民からの意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開催当日の天候によるが、盆踊り大会実施日は気温が高く、休憩時間の確保や模範踊りの踊り手が適切に水分補給できるよう配慮が必要。</li> <li>・盆踊りの曲は昔ながらのものばかりなので、若者が踊れるような曲も取り入れてほしい。</li> <li>・年々、踊りの輪に入る人が少なくなっているように思われる。子連れの若い夫婦等は踊るのが難しくてもアトラクションや居合わせた知り合いとの会話を楽しんでいるようなので、盆踊りのみの行事ではなく、「夏まつり」として楽しめるようにしてはどうか。</li> <li>・踊り終了後の抽選会(午後9時)を待たずに帰ってしまう人が多い。抽選発表の時間を早める、スピードくじに切り替える等の検討が必要。</li> <li>・盆踊りを「夏まつり」の一要素として捉えてみてはどうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6月の運営委員会で開催概要の検討、7月の盆踊り大会実行委員会で当日の運営体制・役割分担を決定。</li> <li>・当日は会場設営及び全体進行を町会長会、アトラクションを町内公民館長会、会場の環境整備を各種団体、各公民館委員はそれぞれの専門分野を担当して盆踊り大会を運営。</li> <li>・熱中症対策に配慮して休憩時間を確保しながら当日プログラムを進行し、事故なく円滑に当日の日程を終了した。</li> <li>【8月末に反省会を開催し、課題を整理】</li> <li>・子どもの参加を考慮すると20時30分には全日程を終わらせるのが妥当、抽選会の時間・方法も合わせて検討する必要あり。</li> <li>・新しい踊りを取り入れるには指導する側も練習が必要で難しい面もある。盆踊り大会自体に新しい楽しみの要素を盛り込むようにしてはどうか。</li> <li>【運営委員会で検討】</li> <li>盆踊り大会実行委員会の前に開催する公民館運営委員会で7年度の開催要領について協議するよう決定。</li> </ul>
15	第二地区 公民館	見直し	第二地区文化祭	<ul style="list-style-type: none"> <li>・盆踊り大会と同じ構成で実行委員会を組織し、毎年11月の第2土・日曜日に開催し、R6年は27回目にあたる。R2~3年はコロナ禍により中止し、再開後の4~6年は第2土曜日の1日のみで開催。来場者・実行委員合わせて概ね400人が参加している。</li> <li>・運営委員会で開催要項について協議し、実行委員会で役割分担を確認して準備に着手する。</li> <li>・第二地区公民館で活動する団体への周知及び作品展への出展・ステージ発表への出演の有無の確認は公民館が対応。</li> <li>・地区内18町会の町内公民館長が各町内で出展作品の募集・集約を行い、町会ごとに作品を搬入する。</li> <li>・公民館を文化祭会場とするための会場設営を町会長会が主力となって行い、各種団体は健康相談コーナー等の各担当コーナーの設営を主に行う。</li> <li>・事務局は文化祭当日の役割分担の調整、会場設営・当日の運営に必要な物品の手配を行い、実行委員会で確認して当日に臨む。</li> </ul>	<p>【住民からの意見等】</p> <p>【開催日程】</p> <p>コロナ禍による休止以前のR1年までは土日の2日間開催し、バザー・喫茶コーナー・そば等の軽食提供も行ってた。再開にあたって各団体からの意見・希望を聴取したところ、実行委員の高齢化に伴い、負担軽減・文化祭の簡素化を望む意見が大勢を占めていた。</p> <p>【会場準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・天候不良で前日に玄関周りの飾り付けができなかった場合の対応(当日の朝、対応する場合の体制)を毎回決めておく必要がある。</li> <li>・館内の会場設営の際、実行委員の人数が多すぎて効率がよくない。準備から当日までの日程の中で担当を効率よく割り振ってほしい。</li> <li>・作品展の準備の際、出展する各サークルが参加するよう徹底してほしい。</li> </ul> <p>【当日の対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・野菜市、巻き寿司・おやき・団子・焼き菓子等の軽食販売は、好評で早々に売り切れてしまう。仕入れを増やして販売時間を長くする、午前・午後の二部制にする等の工夫ができないか。</li> <li>・昼の時間帯はステージ発表がないので、その間にステージを使ったアトラクションができないか。</li> <li>・文化祭終了後のステージの片付け・作品撤収の際は、「午後4時」と案内している時間を厳守して時間前に片付けを始めないよう徹底する必要がある。文化祭全体の統一感がないと来場者が戸惑ってしまう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍以降、松本マラソンが11月第2日曜日に開催されるようになったこともあり、土曜日1日での開催が定着しつつあるが、毎年、公民館運営委員会で日程案を検討した上で実行委員会に案を示して最終決定している。</li> <li>・準備、当日ともに各担当で余剰人員が出ないよう実行委員の割振りを改め、都合がつかない場合は実行委員が互いに連絡をとって個々に調整することとした。</li> <li>・軽食販売の充実・時間延長を望む声は多いが、現状では仕入れの都合で販売数が限られている。仕入れ先の開拓等の情報提供を実行委員に投げかけている。</li> </ul>
16	第二地区 公民館	見直し	ポッチャ大会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の運動不足解消と親睦のため公民館活動にポッチャ大会を取り入れるようR1年度に講習会を開催。</li> <li>・2年度はコロナ禍により具体的な活動に取り組むことができなかった。</li> <li>・R3年度に町会連合会からポッチャの競技セット(2セット)が寄贈され、地区独自の大会開催にこぎつけることができた。それ以降は年に3~4回開催し、地区内での定着を図ってきた。毎回、20名前後が参加している。</li> </ul>	<p>【住民からの意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大会議室に公式ルールの規格よりも狭いポッチャコート2面を設定。参加者にとって広すぎないため、競技を楽しむ余裕があるとのことで好評を得ている。</li> <li>・参加の回を重ねるごとに競技上の駆け引きが分かるようになり、「ポッチャの面白さが分かってきた。作戦を話し合うことも楽しい」といった声も聞かれるようになった。</li> <li>・参加者が固定している感もあるが、その分、顔見知りが増えて競技中の会話も多くなった。</li> <li>・冬場にも開催してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「町会連合長杯」として冠大会を設定し、一層の浸透を図っている。</li> <li>・冬場の開催への要望が多く、2月中旬に今年度5回目の大会を開催することとした。</li> </ul>

【5つの重点戦略】 令和6年度 公民館事業の取組み結果（2025.1.30時点）

N0.5

NO	公民館名	見直し 新規	事業名	これまでの取組み経過	住民等から寄せられていた課題等	今年度の取組み結果
17	寿公民館	見直し	ウォーキング大会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長年、駅伝大会として町会対抗で選手を出し、全町会を巡るコースで実施していた。道路沿線に住民が応援に出て、声援も多く、賑わいを見せていた。</li> <li>・しかし、警察から市道・県道の利用が禁止され、地区東北部の田園地帯で実施したため、少し寂しくなっていた。選手を選出できず不参加の町会も出始め、選手集めに大きな課題があった。コロナ禍で中止することになり、R5年度からウォーキング大会に変更した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナが収束し始めてからも、選手集めが大変なため駅伝大会の中止を訴える町会と、地域交流のために駅伝大会を実施してほしい町会との両方の考えがあり検討した結果、前者の意向が強かったことから中止に至り、ウォーキング大会と体力測定に変更した。</li> <li>・R5年度はコロナ禍の影響もあり、広報活動で参加選手を募らなかつたため、参加者が極端に少なく、役員と近親者のみの大会となった。</li> <li>・「今年度は地域住民誰もが参加できる行事にして、参加要請はしない方向で進めてほしい」との要望があった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者を集めるため、広報活動を工夫した。特に①参加者に500円のクオカードを進呈②小学校PTAの連絡網に広報を載せて周知③公民館前にのぼり旗を10日間立ててアピールするなどの工夫を行った。</li> <li>・その結果、84人の参加者を募ることができ、盛況に実施することができた。</li> </ul>
18	寿公民館	見直し	スポーツフェスティバル	<ul style="list-style-type: none"> <li>・以前は長年にわたり、町会対抗の運動会として実施されていた。「選手の選出が大変」という意見が寄せられていたが、各町会で多くの参加者を選出したり、景品を出したりするなど工夫し、賑やかに実施されていた。</li> <li>・しかし、コロナ禍で中止となってからも「選手選出の困難さ」により再開できず、R5年度は内容を体力測定やニュースポーツ体験会として実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度は、まだコロナの影響もあったため、積極的に広報活動を進めることが出来ず、参加者も極わずかであった。</li> <li>・「ぜひ運動会として復活させてほしい」という願いが、特に高齢の方から強く寄せられていたが、実行委員会で検討した結果、「運動会の実施は困難」との結論に至り、スポーツフェスティバルに変えて実施することになった。</li> <li>・しかし、「運動会を実施してほしい」という要望は、今でも強く寄せられている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は、R5年度に実施した体力測定とニュースポーツ体験会のほかに「Eスポーツ体験会」を取り入れた。さらに、春に人気のあった「ウォーキング大会」も取り入れたことで、100人弱の参加者を募ることができ、大盛況に実施することができた。</li> </ul>
19	寿公民館	見直し	福祉の文化祭	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がい者施設から「地域と交流したい」との要望があり、福祉・人権の立場から、施設と住民との交流の場として文化祭として実施するようになった。</li> <li>・公民館、福祉ひろば、福祉施設が中心となり、コロナ禍でも内容を工夫しながら続けてきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スタート当初は、スタンダードな文化祭のように展示やステージ発表的なことを行っていた。</li> <li>・コロナ禍以降は、公民館が主体的に提案し、ケセラのコンサートや各施設のブースなどの内容で実施してきたが、各施設から「当初の交流という要素が弱まっている」等の意見もあり、思いを生かしきれない状況となっていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は、各施設の考えを出し合って話し合い、各施設ブースからの情報発信や小学生も参加しながらのじゃんけん大会などが催され、交流を軸とする内容で実施することができた。</li> <li>・来年度は、話し合う際の進行役も施設の職員に任せ、より主体的に事業について考えてもらうよう促していきたい。</li> </ul>
20	入山辺公民館	見直し	入山辺地区全体行事～スポーツの秋・食欲の秋・入山辺全員集合～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町会長・町内公民館長・スポーツ協会役員・館報編集委員・各種団体長等の住民と地域づくりセンター（出張所・公民館）が連携し、「入山辺地区大運動会」として10月の第3日曜日に開催(大正8年スタート)。</li> <li>・8月頃から実行委員会を開催し、開催内容等を検討・決定。</li> <li>・スポーツ協会役員が運営方法等に関する会議を2回実施。</li> <li>・町内公民館長が各地区の参加者を取りまとめ、運動会前日に準備。</li> <li>・当日は、玉入れ、ゲートボールリレー等の町会対象種目、100m走、マラソン、保育園遊戯、クイズ王選手権等の種目を実施し、約800人が参加。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年度の反省会(雨天中止)において、「今後の開催については、住民が減少するなか、これまでと同様の方法で開催するのは難しいことが予想される。今後の開催について、検討していく必要がある」との意見が寄せられる。</li> <li>【各町会からの意見】</li> <li>・高齢者が増え、町会対抗種目に参加する人数を集めることが難しく、参加出来ない。</li> <li>・町会対抗ではなく、オープン参加に出来ないか。</li> <li>・地区の大切な行事であり、住民が顔を合わせる機会を無くしてはいけない。</li> <li>・町会での人集めの負担が大きい。</li> <li>・今年度、我々の町会は参加しない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月～6月にかけて、実施判断を検討する町内公民館長と事務局の公民館職員を中心に、大運動会の開催について協議。結果、大運動会は取りやめ、オープン参加での行事への転換が決定。</li> <li>・7月から8月上旬にかけて、運営を担うスポーツ協会と事務局が中心となり、運営方法を協議。子どもが楽しめることを中心に内容を検討するだけでなく、多くの住民が参加出来るように大運動会で人気のあった種目や、お楽しみ抽選会、健康マージャン、フィットネス運動、キッチンカー、消防車乗車体験等を実施することを計画。</li> <li>・8月下旬に全体関係者の実行委員会を開催し、開催内容等の共有・決定。</li> <li>・9月下旬にスポーツ協会全体会議を開催し、当日の運営方法等の具体的な打合せ。</li> <li>・10月18日にスポーツ協会を中心に開催への向けた最終打合せ・準備。</li> <li>・10月20日入山辺地区全体行事～スポーツの秋・食欲の秋・入山辺全員集合～として開催し、各イベントに景品も用意(350人参加)。</li> <li>・実施後のアンケート結果では参加者の85%、運営役員の83%が満足している結果だった。</li> <li>・反省会の結果、次年度の運営方法は今年度と同様に進めるが、より良いものにするため、細かい反省事項を改善していく必要があるという意見が出された。また、事業名についても地区に浸透していく必要があるため、公募等を行うことが必要ではないかという意見が出された。</li> </ul>

【5つの重点戦略】 令和6年度 公民館事業の取組み結果（2025.1.30時点）

N0,6

NO	公民館名	見直し 新規	事業名	これまでの取組み経過	住民等から寄せられていた課題等	今年度の取組み結果
21	入山辺公民館	新規	入山辺公民館で中学生と楽しむ日！	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民から、「中学生の顔が見えない」という意見が多くあった(地区行事の実行委員、民生児童委員)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入山辺地区では、「地域の子どもは地域で育てる」という考えのもと、小学生・中学生・高校生・大学生、そして地域の大人へとつながる循環型の取組みを進めており、「中学生を対象とした取組みを行って欲しい」という意見が寄せられた(小学生を対象とする事業は親子ひろば、通学合宿等があるため)。</li> <li>・実施へ向けては、「中学生に地区の良いところを知ってもらい、地区の魅力を再発見してもらえないか」「中学生に参加してもらうためには、参加し易く、楽しい内容であることが大切」といった意見や方向性が提案される。</li> <li>・地区の民生児童委員協議会、入山辺記念林協議会(財産区)、こんな山辺にするじゃん会と協力し、事業内容の決定、当日の運営を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6月中旬までに事業内容を決定。</li> <li>・参加募集については6月下旬に山辺中学校に依頼し、入山辺地区の生徒に直接プレゼンテーション。山辺中学校以外に通う生徒のために回覧を実施。参加申込はロゴフォームで対応。</li> <li>・8月1日(木)午前9時から開催し7人が参加(申込み8人)</li> <li>【イベント内容】</li> <li>(午前)山辺消防所長さんによる「お天気教室」、子ども会育成会長による「パッククッキング講座」(昼食)民生児童委員・こんな山辺するじゃん会のメンバーとバーベキュー。焼きたてピザやパッククッキングで作ったオムレツ等も食す。</li> <li>(午後)町会長が講師となり、入山辺記念林の会員と美ヶ原高原(一部財産区)台上を散策(天候にも恵まれ、綺麗な景色の中を楽しく散策)</li> <li>・参加した中学生からは、「楽しかったので来年も参加したい」という声があり、地区住民からも「中学生と楽しくコミュニケーションを取れる良い機会になった」との意見が寄せられたため、来年も継続開催をすることで共有。</li> </ul>
22	庄内地区公民館	見直し	ドリーム庄内“秋のつどい”	<p>【概要】毎年10月後半に行われる地区最大のイベント。地域の団体や役員が実行委員となって企画・運営している。イベントの内容は毎年検討し実施するため、これまで文化祭・運動会など様々なことを行ってきた。</p> <p>【見直し経過】コロナ禍においてこれまでと同じようなことができなくなると、代替企画として防災に関する展示を公民館が主となり実施していた。そのため、公民館事業としての側面が強くなっており、地域住民の意識として、公民館が考えたことを実施するだけ、という状況になっていた。また、反省会などで企画へのマンネリ感が指摘されていた。</p>	<p>【見直し理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各町会がお金を出し合い、地区を盛り上げるために行っているイベントだが、住民による主体的な運営ではなかった(実行委員の多くが、地区の関係団体役員のためやらされ感があつた)。</li> <li>・同じ内容の繰り返しで、企画のマンネリ感があつた。</li> <li>・「子どもたちの意見も取り入れられれば良いのではないかと」の意見があつた。</li> </ul> <p>【対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地元の小中学校に行き、ドリーム庄内のプレゼンを行い、運営委員を募集した。</li> <li>・少人数で集まり大まかな企画を検討。イベントの担当を作って、事務局と担当になった役員で事業の詳細を詰めていった。</li> </ul>	<p>【実施内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前日に前夜祭を開催。子どもたちが企画したビンゴ・歌・クイズ等で交流を図る(その後、飲食等を伴う役員間の前夜祭有)。当日も、防災要素を取入れた運動会を開催し、子どもたちが司会進行や準備・片付け等で参画することができた。</li> </ul> <p>【今年度の成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学生19人が運営委員として参画。イベント1つを一から創り上げた。</li> <li>・地域への広報に子どもたちが協力してくれたため、昨年に比べて参加者が増加した。</li> <li>・企画に担当制を導入したことで、それぞれ積極的な意見出しが行われた。</li> </ul> <p>【次年度へ向けて】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担当間の連携不足で、当日の運営で上手くいかない部分があつた。情報共有をさらに密にして行くこと、会議に出ている役員が構成員にしっかりと指示を出せる様にするなど改善案がだされた。</li> <li>・学校から今後も児童・生徒が地域と関わる機会を作ってほしいとの声があつた。また、住民からも好評で今後も続けて行きたいと意見があつた。</li> </ul>
23	波田公民館	見直し	波田文化祭 福祉ひろばまつり	<p>【波田文化祭】</p> <p>参加団体と文化委員会、町会連合会、公民館長会で実行委員会を組織し波田支所にて開催。当日の実質の運営は文化委員、準備・片付けは町会長、公民館長が行っていた。</p> <p>【福祉ひろばまつり】</p> <p>波田文化祭と同月の別週に、波田保健センターで開催。準備、運営、片付けは町会長が協力して行っていた。</p>	<p>【波田文化祭】</p> <p>土日の2日間にわたって開催するため、土日を拘束されることになり文化委員の負担が大きい。</p> <p>【波田文化祭・福祉ひろばまつり】</p> <p>町会長が同月に両方の準備や片付け、運営に参加しなければならず負担が大きい。重複している参加団体もあり、両方に参加するのは大変。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・波田文化祭と福祉ひろばまつりを同日、同会場で開催することにより町会長の負担を軽減。</li> <li>・文化委員については、今までの土日2日間ではなく、どちらか半日の協力で済むように役割の見直しを行った。</li> <li>・福祉ひろばまつりについては会場の変更もあつたが、問題なく運営でき、来場者、運営側からも好評であつた。</li> </ul>

【5つの重点戦略】 令和6年度 公民館事業の取組み結果（2025.1.30時点）

N0,7

NO	公民館名	見直し 新規	事業名	これまでの取組み経過	住民等から寄せられていた課題等	今年度の取組み結果
24	和田公民館	見直し	健康スポーツのつどい	コロナ禍以前に実施をしていた夏・冬のスポーツ大会、秋の運動会に代わる行事として令和5年度から「健康スポーツのつどい」として夏・秋・冬として実施。	参加者の減少や運営役員の負担。	秋の大会を廃止し、夏・冬の2大会を実施した。また、競技種目も夏はソフトバレー、冬はポッチャを実施し、競技性の大会種目と誰でも気軽にできる種目とすることで参加者の増加を目指した。
25	島内公民館	見直し	スポーツフェスティバルin島内	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体協・公民館委員(体育・館報・文化・図書)・町会長・町内公民館長・安協等の住民と、地域づくりセンター(出張所・公民館・ひろば職員)が連携し、「島内地区大運動会」として10月の第3日曜日に開催。</li> <li>・8月に関係団体代表で方向性や開催方法を検討。9月に関係者全員で実行委員会を組織し、開催方法等について検討・決定。</li> <li>・運動会前日に準備を行い、終了後、関係者で前夜祭を開催。</li> <li>・当日は、年齢別ルー・障害物競争・玉入れ等の町会対抗種目や、園児旗拾い・クイズ王決定戦といったオープン参加種目、小学校4年生の出演・中学校金管バンドの演奏等15種目に、老若男女2,000人が参加。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉ひろば推進協議会において、コロナによりR2～3まで地区事業(運動会・コンサート)が中止された経過を踏まえ、R4以降の運動会実施の有無及び実施方法について検討するよう、委員から意見が寄せられる。</li> <li>・そこで、R4の4～9月までの間に、町会単位で運動会の課題や実施有無について話し合うよう公民館から依頼する。10月以降、運営団体代表者で検討し、「運営関係者や若い世代でプロジェクト(PJ)を組織化し、町会の意見をベースにししながら、1年かけて方向性を検討する」ことに決まる。</li> <li>・R5の5～10月にPJで検討し、運動会に代わる新たなスポーツイベント(案)を作成。(案)を運営団体代表者・町会長・町内公民館長と共有＆ブラッシュアップし、住民等へ周知。</li> </ul> <p>【令和4年度に町会単位で話し合った運動会への意見・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住民の減少等により、全種目に参加できない町会が複数ある。</li> <li>・「町会対抗」だと参加を断る人が多い。オープン参加にできないか。</li> <li>・現在の種目が住民ニーズとマッチしていない。</li> <li>・景品の充実を求める声が高い。</li> <li>・趣旨は理解するが、住民が積極的に参加する雰囲気がないため、人集めや当日の運営など、運営者として負担を感じている。</li> <li>・運動会の廃止もしくは、運動会以外の種目開催を求める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月に町会連合会、町内公民館長会、体育協会による「スポーツフェスティバルin島内実行委員会」を組織し、開催内容や種目内容について会議を重ねて協議し決定。10月に全体関係者を集めて開催内容を共有した。</li> <li>・10月20日にスポーツフェスティバルin島内を開催(約300人参加)。オープン参加形式で、全4種目に入賞の景品を用意。休憩時間に玉入れ(希望者全員参加)と旗ひろい(未就学児対象)を行い、参加賞を配布。</li> <li>・反省会の結果、次年度の運営方法は今年度と同様に進めるが、景品の数や人員配置等について見直しを求める声(参加者・運営者全員へアンケート調査を実施)があったため、R7の4月以降の運営委員会で検討する方針。</li> </ul>
26	松原地区公民館	新規	まつばら謎解きウォーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町会アンケートの結果により、R5年度まで実施していた地区スポーツ事業(町会交流スポーツ大会・ウルトラゲーム大会・ニュースポーツ体験会)を廃止した。そこで、新規事業を検討したもの。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者の大半が役員及び地区スポーツクラブ会員となっている現状から、今後の地区スポーツ事業のより良い在り方を探るため、町会アンケート実施。</li> <li>・町会交流スポーツ大会に関するアンケートは、町会役員を対象に書面アンケートを実施したが、表面的な結果しか得られず、改善に向けての検討に至ることができなかった。そこで、さらに詳しく、本音を聞き取るために、前回アンケート対象者の一部に対して、グループインタビュー形式での調査を実施。</li> <li>・球技種目への参加については、日頃運動していない方からすると、ハードルが高いものであり、日頃運動している方からすると、クラブ活動等で運動欲求を満たしているため、大会への参加意欲は高くないことがみえてきた。</li> <li>・参加へのハードルを下げるため、運動レベルによる差が生じないウォーキングイベントを検討することにした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7月のスポーツ協会会議において、松原地区内で新規ウォーキングイベントを実施することについて委員の総意を得た。</li> <li>・8月のスポーツ協会会議において、地区内にチェックポイントを設け、クイズを解きながらウォーキングする内容で検討することが決定。</li> <li>・自宅の位置による不公平感をなくすため、スタート地点及び時間は決めず、所定の時間内で地区内10箇所のうち好きな箇所を回り、クイズを解く方式とした。また、インターネット検索しても答えが出ないような、ローカルクイズの作成を意識した。</li> <li>・実施後の反省として、問題が難しかったとの声があり、来年度以降の作成の際は、難易度のバランスを考えながら作成が必要であると感じた。</li> </ul>

# 島内地区運動会の見直しについて

令和6年度第3回松本市公民館運営審議会資料  
島内公民館主事 中條 陽

## 1 はじめに

島内地区大運動会の概要…島内公民館・町会・町内公民館・体育協会等が連携して開催

## 2 見直しのきっかけ

ゲリラ豪雨やコロナにより3年間開催できない期間が発生（令和元～3年）

↓

住民からの運動会見直し要請

↓

町会長・町内公民館長等へ、町会単位で運動会の課題について調査を依頼

↓

今までのやり方は既に限界を迎えている？

## 3 見直しの経過と実施まで

(1) 運営団体代表者（町会連合会、町内公民館長会、地区体育協会）3役で構成するプロジェクトチーム(PJ)を発足

(2) 令和5年度に1年かけて検討し、新しいスポーツイベント「スポーツフェスティバル in 島内」の方向性を確定

(3) 令和6年度に入り、フェスティバルの内容を決定し、10月20日（日）に実施

## 4 まとめ

# 第1回 スポーツフェスティバルin島内

令和6年10月20日(日)

事前申込不要

どなたでも自由に参加できます。

## プログラム

会場 あずさグラウンド

◆開会式 8時(終了12時頃)

◆実施合図……午前6時 打ち上げ花火でお知らせします。(雨天中止)

主催:スポーツフェスティバルin島内実行委員会

共催:島内地区長会連合会、島内地区町内公民館長会、島内体育協会、島内公民館

協賛:JA松本ハイランド、松本信用金庫

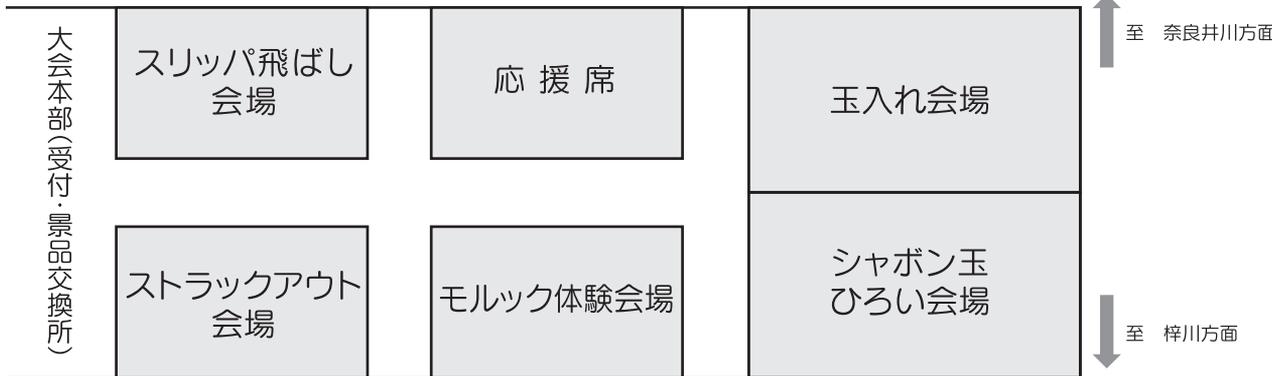
### 当日の内容

NO	内容	実施時間	備考
1	開会式 全体体操	8:00~8:20	
2	競技	前半の部 8:30~9:40 休憩 9:40~10:10 後半の部 10:10~11:20	種目内容 (1) ホールインワン (グラウンドゴルフ) (2) スリッパ飛ばし (3) モルック体験 (倒したスキットの総数) (4) ストラックアウト (テニスボールver・サッカーボールver) ※ 玉入れ、シャボン玉ひろいを休憩時間中に実施します (シャボン玉ひろいは小学生未満児対象)
3	閉会式	11:30~11:50	
4	大抽選会	11:50~12:00	当プログラムの抽選券に必要事項を記入の上、当日本部に設置する抽選箱に入れてください。

- ・(1)~(4)の競技は①小学生未満②小学校低学年③小学校高学年④中学生以上のカテゴリーに分け(男女混合)、それぞれ3~5人ずつくらいで行い、1位の方に景品を差し上げます。
- ・スタンプラリーを実施し、上記(1)~(4)全てを回った方は景品交換所で景品を差し上げます。スタンプカードは、当日の受付で配布します。
- ・競技、スタンプラリーの景品には限りがあります。途中で品切れになってしまう場合もありますので、ご了承の上、ご参加ください。

### 会場図

ホールインワン会場(ゲートボール場)



- ・開会式・閉会式等は応援席で行います。・駐車場には限りがあります。なるべく乗り合わせか、徒歩、自転車でお越しください。
- ・会場周辺の駐車場及び通行は、安協役員の指示に従ってください。・火器の使用は禁止です。・ゴミは各自でお持ち帰りください。



## 大抽選会

- ★受付は、11時30分まで
- ★閉会式のとき抽選します

右の抽選券に必要事項を記入し、フェスティバル当日、会場の抽選箱(本部に設置)に入れてください。

1世帯1枚限りです。

※抽選時、世帯主または家族がいない場合は無効となります。

## 抽選券

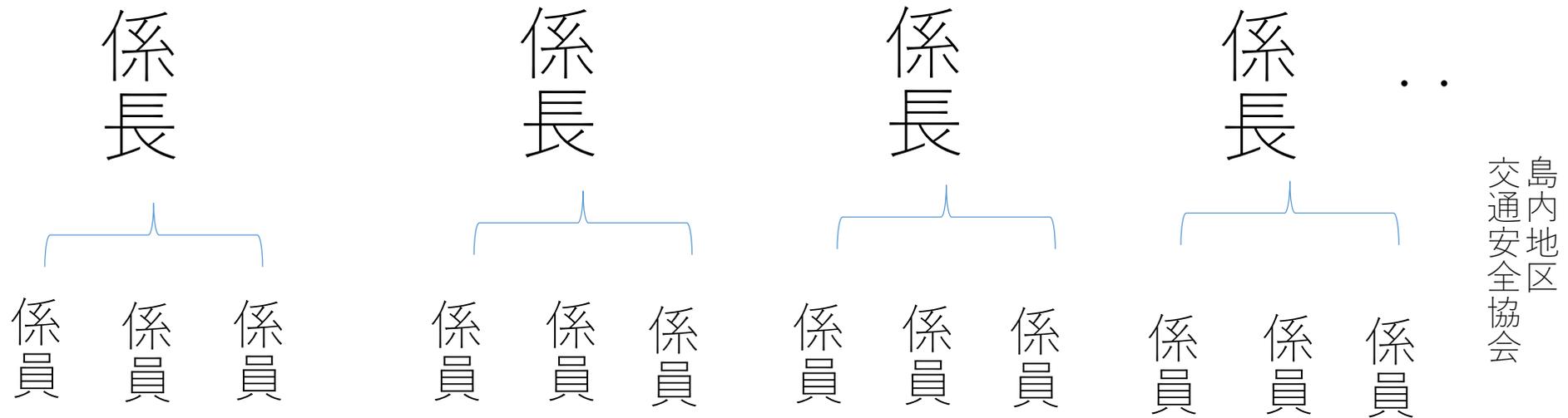
必要事項を記入の上、当日抽選箱に入れてください。

町会名	世帯主名	ふりがな
-----	------	------

投票は1世帯1枚、当日の11時30分まで受付。閉会式の抽選会にいない場合は無効となります。

# スポーツフェスティバルin島内 実行委員会

三役会  
(町会連合会・町内公民館長会・体協)



- ・係は種目毎に設定する（計6種目）
- ・係長は体協三役・部長が就任し、係員は体協地区評議員、町会長、町内公民館長が務める
- ・駐車場係、交通整理については、地区安協に依頼する
- ・事務局は島内公民館が務める

# 平瀬古城会の取組み

## 1 会の設立経過

松本市の特別史跡「平瀬城跡(H26.3.5指定)」を核に、地区内文化財等関係者をネットワーク化し、史跡保存・活用などを通じた地域づくり活動を推進するために、「平瀬古城会」を組織

公民館がつなぎ役となり、町会・町内公民館・史跡関係者・酒造会社・染物店・飴屋などの関係者で、令和2年4月30日に設立総会を実施

## 2 会のコンセプト

会員が楽しみながら、自由に意見を出し合い、積極的かつ主体的に活動する。

①楽しみながら活動するために、無理はしない&背伸びしない

②やりたいことを実現するために、自由に意見を出せる環境をつくる

⇒「〇〇をやりたい」と発言した人が責任を負うのではなく、実現へ向けて、公民館が会員などで「関心がある&つながりたい人」を見つけて「つながる場」をつくる。

## 3 会の活動

**パンフレット作成**

The brochure details the history of the area, including the founding of the city and the role of the Hiraiki and Inuamari families. It features a map of the region and historical photographs.

**整備作業**

Members of the association are actively involved in site maintenance, including clearing overgrown vegetation and performing earthwork to preserve the historical site.

**どぶろく酒製造**

The association organizes the production of doburoku, a traditional sake. Members participate in the brewing process, and the final product is bottled and distributed.

**陶芸講座**

A pottery workshop is held for members, providing an opportunity to learn traditional pottery-making techniques in a hands-on setting.

**小中学校授業**

The association provides educational programs for local schools, where children learn about the region's history and culture through various activities, including playing traditional instruments.

**染物体験**

A dyeing workshop is held where participants can experience the traditional art of natural dyeing using local materials and techniques.

**狼煙まつり**

The festival includes the lighting of bonfires, traditional music performances, and the display of a large banner for 'Hiraiki', celebrating the local heritage.